

2021年3月議会 一般質問

2021年3月定例会市議会は、日本共産党福山市議団を代表して、
みよし剛史市議が一般質問を行いました。
第一質問と答弁をお知らせします。

3月5日
午後1時45分～

みよし剛史市議

- | | |
|---------------------------|----|
| 1 保育行政について ----- | 2 |
| 待機児童対策について ----- | 2 |
| 2 福山道路・福山沼隈道路建設について ----- | 7 |
| 3 福山駅北口広場整備について ----- | 10 |



保育行政について

みよし剛史：待機児童対策について伺います。

保育の需要は、乳児期からの入所の増加と、幼児部分の保育無償化によってさらに高まっています。自治体には保育実施責任を果たすことが求められていますが、本市における待機児童数は今年度 4 月時点で 5 名、10 月時点で 10 名生じています。また、希望の入所ができず、兄弟が別々の保育園に通わなくてはならないケースは昨年 4 月時点で 189 世帯であり、昨年度の約 200 世帯から改善していません。来年度の入所利用調整における保育要件判定基準について、兄弟の入所状況の考慮点の引き上げに取り組まれるとのことですが、これにより兄弟が同じ保育園に通えないケースはどれくらい解消される見込みなのか、お答えください。

待機児童や希望入所に応えられない問題を根本的に解決するためには、保育士不足を解消しなくてはなりません。福山市では 2019 年度より保育士確保策として、資格のない補助者の雇用経費助成、保育士資格取得に係る経費の支援、市外出身の新卒保育士に対する住宅費補助に取り組んでいます。これらの事業の実績についてお答えください。

コロナ禍の下での保育は、消毒作業や保護者の代わりに行う子どもの荷物の整理など、通常の保育業務以上の対応を迫られ多忙化しています。また、保育中の子どもの密を避けるための配慮や手洗い・マスクの徹底など神経を使う場面も多くなっています。

全国福祉保育労働組合が毎年行っている保育士や栄養士を対象とした調査では、仕事での心身の疲れについて「とても疲れる」と答えた人が49%とほぼ半数に上り、「仕事を辞めたいと思ったことがある」と答えた人は69.7%と、過去10年間で最も高くなったとのことです。

子どもの成長・発達の保障と、感染防止対策の徹底を両立することは、並大抵の努力ではできません。貧しい職員配置や施設面積の下では限界があります。加えて全産業平均の7割程度しかないと言われる低い処遇ではいくらやりがいのある仕事であっても続けることができません。

保育が抱える構造的な問題が、コロナ禍によりさらに保育士の働き方を行き詰まらせ、離職増の危機を招いています。今こそ保育の諸課題の解決に向けて、福山市独自の保育士配置基準の引き上げと抜本的な処遇改善に踏み切るべきと考えますがご所見をお示し下さい。

厚労省は昨年 12 月に新たな待機児童対策である「新子育て安心プラン」を公表し、2024 年度までに 14 万人分の保育の受け皿を増やすとしていますが、保育士確保についての施策に目新しいものはありません。それどころか、待機児童がいる地域限定で少なくともクラスに 1 人は必要な常勤保育士を配置するという原則を取り払い、パート等の短時間勤務の保育士の配置で代替できる規制緩和策を示しています。潜在保育士が再就業するための条件として、短時間勤務を希望する割合が高いなどのアンケート結果を短時間勤務保育士の活用と結びつけようとするものですが、非常勤の短時間勤務保育士が増えれば、さらなる正規職員の負担増になる事は明らかです。また、保育士配置の規制緩和は保育の質や専門性を軽視しているものと言わざるを得ません。このような規制緩和策について市長の認識をお示し下さい。

保育士不足を改善する手立ては正規職員の雇用の拡大と処遇の底上げによって取り組むべきです。国に対しこの規制緩和は撤回するように求めるべきと考えます。ご所見をお示し下さい。

市長答弁：三好議員のご質問にお答えいたします。

始めに、待機児童対策についてです。

兄弟姉妹の同一入所の状況については、現在、審査中のため、現段階では、お示しすることができません。

次に、保育士確保に向けた実績についてです。

いずれも2019年度（令和元年度）の実績となりますが、保育士の業務負担の軽減を図るための「保育補助者雇上げ強化事業」については、38施設において87人、保育士の家賃を補助する「保育士確保促進事業」については8施設において8人の雇用となっています。

新たな人材確保を図るための「保育士資格 取得支援事業」については、資格取得に時間を要することから昨年度は、補助金の申請には至っておりませんが、本年度においては、現時点において、2件の申請があります。

次に、保育士配置基準についてです。

保育士では感染予防対策を徹底し、安全に十分配慮しながら、国の基準をふまえ、本市の条例にもとづき配置された保育士による適正な保育の提供を行って

います。

また、保育士の処遇改善については、これまでも国による処遇改善加算の措置に加え、本市独自の加算の仕組みを追加し、実施しています。

次に、短時間勤務保育士の取り扱いについてです。

このたびの改正は、潜在保育士のうち、短時間であれば勤務が可能な保育士に、多様な働き方を提供する観点からなされたものです。

労働時間が短くなることは、働く保育士にとっては自らの子育ての時間の確保や仕事のしやすさなどにつながる多くのメリットがあります。

みよし剛史：福山道路・福山沼隈道路建設について伺います。

福山市と国・県は福山道路赤坂長和区間と、長和から接続する福山沼隈道路の 2 路線の建設を強力に推進しています。これまで 2 路線の道路建設に対して地域から反対意見が出ていたにもかかわらず、国交省による強引な手法の用地買収により、2020 年 10 月までに福山道路は 93%、福山沼隈道路は 83%の用地が買収されました。

しかし、未だ用地取得が完了しないことから、国交省は事業に必要な土地を所有者の意向に関わりなく強制的に収容することができる土地収用法の手続きを開始し、土地収用法に係る認定手続きである公聴会が 12 月に行われました。

公聴会における広島県と我が党の質疑では、福山道路の赤坂長和区間と福山沼隈道路が完成すると、終点である福山鞆線・野上町交差点から府中分かれ交差点までの区間での一日当たりの交通量は 14300 台から 44900 台と推定しているという答弁がありました。この交通量の最大値は国道 2 号線の神島橋西詰交差点から福山駅前郵便局交差点区間の現在の交通量に匹敵します。一方、この区間の交通量削減効果は国・県の説明では 20%程度しかなく、2 号線での減少分以上の交通量が市街地へと集中し、大きな混雑が生じることが予想

されます。供用開始後はどのような方策でこの膨大な交通量に対応していくつもりなのかお示し下さい。また、この推定について地域住民には説明をしてきたのかお答えください。

また、福山沼隈道路の必要性として説明していた洗谷三差路における交通渋滞の緩和については、削減効果はわずか8%しかないことも明らかになりました。この部分の渋滞は、沼隈方面から水呑大橋へ向かう路線の構造がクランク状になっているために生じているのであり、バイパス道路の効果はほとんど及びません。

福山市が公開している第14回 “ぶち混む” ふくやまの道路事情では、バイパス道路建設によって、「県道福山沼隈線の交通は福山沼隈道路へ転換し、近隣の道路では交通量の減少が期待される。」「渋滞緩和に繋がるため、地域の生活道路へ渋滞を迂回していた車の減少などにも作用することが期待される。」などといった記述がありますが、この部分の渋滞が緩和できるとしている根拠をお示し下さい。

このような大型道路建設に巨額の税金を投じることは見直し、既存道路の改良による渋滞対策、生活道路の維持改修と安全対策、公共交通の利用促進、そして喫緊の課題である災害対策など、市民の安全と命を守る公共事業へと予算を振り向けるべきと考えます。ご所見

をお示し下さい。

市長答弁：次に、福山道路、福山沼隈道路についてであります。

福山沼隈道路が接続する「野上町3丁目交差点」から一般国道2号と接続する「府中分かれ交差点」までの区間は、4車線のため、開通後においても、交通処理が可能であると県から聞いています。

なお、開通後の交通量については、2019年度(令和元年)12月の事業説明会において、関係者や地域の皆様に、県から説明をしています。

次に、福山沼隈道路の整備効果についてであります。

開通後は、主要地方道福山沼隈線の交通が分散され、渋滞緩和が図られると県から聞いています。

幹線道路網の整備は、福山市域における円滑な交通とともに、大規模災害時の代替路や緊急輸送道路を確保し、市民生活の安全性や利便性の向上及び社会経済活動の活性化を図るものであり、引き続き、早期整備に努めてまいります。

みよし剛史：福山駅北口広場整備について伺います。

2月17日、JR西日本から福山市に対し、2019年に両者間で締結された「福山駅北口広場の整備等に関する協定書」等の履行が困難であるとの申し入れがありました。これに対し市長は協定書の廃止を明言し、「福山駅北口広場整備基本方針」は事実上頓挫する結果となりました。コロナによる影響があったとは言え、南北土地交換を前提に北口広場整備の在り方をJR主導で進めてきた市の責任が問われます。この結果についての総括をお示し下さい。

JR西日本の申し入れでは確認書の実行が困難であるとした一方、「駅周辺の活性化のため、改めて市と協議したい」という意向を示しています。これに対し市も「JRとはこれからも連携していきたい」との考えを明らかにしています。今後も整備の検討はJRとの協議で進めていく方針なのかお答えください。

市長総体説明では、「駅前広場の議論の進展を見極めつつ、改めて駅北口広場の在り方を検討する」としています。福山駅周辺の再生に向けて、市は次年度より駅前広場再整備基本方針の策定に取り組んでいく姿勢ですが、駅前広場の再整備にあたっては、交通機能や交流の場を形成し、自由に活用するために取得するために駅南側JRの土

地を取得する必要があるとしていました。この考え方に変わりはないのかお答えください。

これまで我が党は、市民にとって重要な北口広場の土地を企業に譲り渡し、その用途を企業任せにするべきではないことを幾度となく主張してきました。整備事業の行き詰まりによって、方針自体の転換が求められます。JR との土地交換を前提とした整備は、将来にわたって行うべきではありません。ご所見をお示し下さい。

市長答弁：次に、福山駅北口広場整備については、JR西日本から新型コロナの影響で、「福山駅北口広場の整備等に関する協定書」の履行が困難となった旨の申し入れを受け、協定を廃止することになります。

「福山駅北口広場整備基本方針」が頓挫したわけはありません。

JR西日本とは、本市の発展のため、これからも連携してまいります。

駅南側の広場については、新年度から立ち上げる協議会での議論などを行うなかで、基本方針を定めることにしています。